

加工業務用カボチャは3月播種が適する

加工業務用カボチャの普通作型は、3月下旬までの播種で着果が安定し、4月播種に比べ収量が多い

背景・目的

- ・本県の加工業務用カボチャは、トンネルを使用しない低コスト栽培による7月出荷が求められる
- ・普通作型では、梅雨による降雨、日射量不足や茎葉の早期枯れ上がりにより収量、果実乾物率が低下し、生産が不安定
- ・加工業務用カボチャの普通作型では、生産に適する播種期と収量・品質の解明が必要

成果の内容

- ・3月播種では、雌花が梅雨入り前に開花(図1)
- ・4月以降の播種では、開花が梅雨期間中に入る(図1)
- ・播種が早いほど雌花開花数は多く、4月以降は着果数が大幅に減少
- ・播種が早いほど1果重は大きく、商品果収量も多い(図2)
- ・3月播種の収穫期は6月下旬～7月上旬で安定した収量と品質を確保

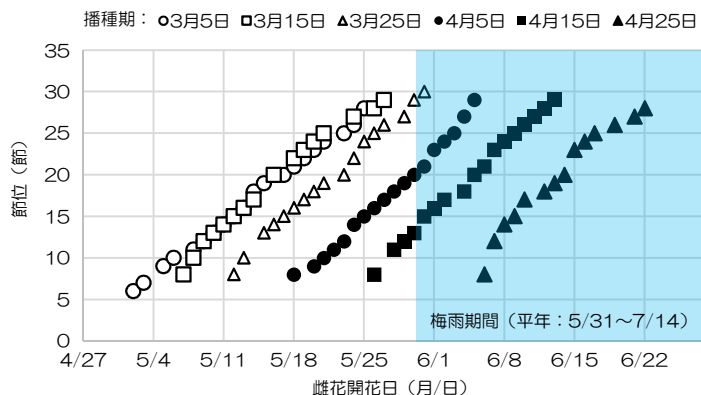


図1 播種期の違いによる節位別雌花開花期

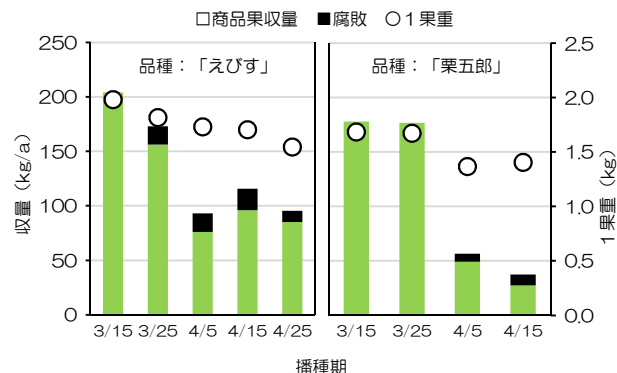


図2 播種期と1果重、株当たり着果数および収量

※畝幅5m、株間35cm、主枝は親づるを使用し、10節以降の側枝は放任、自然受粉での試験結果「栗五郎」の3/5播種は強風による欠株が発生

期待される効果

- 3月播種による安定生産・所得向上
- 加工業務用カボチャの安定供給
- 大規模経営体の夏期品目として導入
(トンネル資材・受粉は不要、整枝も初期のみで省力的)



加工業務用カボチャ出荷時の様子

- 普及対象・範囲
加工業務用カボチャ生産者

鹿児島県農業開発総合センター大隅支場
園芸作物研究室